

非認知能力をみんなで鍛えよう！

非認知能力って何？

【忍耐力や社交性、自尊心など幅広い力や姿勢を含み、学歴や仕事など将来の成功の支えとなるものとして、今、世界的に注目されている力です。】

基本は、まず自己肯定感を十分に育む事です。そして、自発的に問題点を見つけて解決出来るようになります。 (ここで言う自発的とは知り得た情報を有効に活用して横断的に思考できる力です。)

非認知能力獲得の壁は何だろうか？

現代社会の中で溢れている「便利なものや効率の良い道具」「答えを与えたり答えを覚える教育や育児」でしょう。これらの便利な「こと」や「もの」「道具」を探していくと以外にも現代生活の中で多いことに驚くとおもいます。みなさんも、生活の中で便利な「もの」を探してみませんか？

「計算機、スマホ（電話）、車、ガスコンロ、電子レンジなどと、便利なものを探してみよう。」

改めて意識しながら探せば探した数だけ子ども達の非認知能力は向上するでしょう。無意識に当たり前のように与えず意識的に与えることが必要です。また、当たり前が素晴らしいことにも気付くと思います。不便を知っているから便利さにありがたみを持ち、考えることもできるのです。便利な「もの」は今まで以上の成果が出せる「便利なもの」と理解できるのです。

この便利探しをして、大人が気付き考えながら与える活動によって自然と子どもに必要な関わりになっていくでしょう。故に不便は思考力の栄養だ。

アメリカでは当たり前のようにお小遣いは小学生でも自分で稼ぐ、行きたい学校の学費は自分で稼ぐ。日本では・・・これは、どちらが良くてどちらが悪い訳ではなく、その背景にあるしっかりした目標や意識をしっかり持っているかを問題視しましょう。

では、便利を実際探して書き出してみよう。

--

いくつ見つかったかな？

便利で当たり前のように生活の中にあっただもので、無くなってしまうことが考えられないものが急に無くなったらどうなりますか？そこで何を考えるかが人間の本来の思考力と言えるでしょう。ことわざでも「いつまでも、あると思うな〇〇」など改めて考えなければいけない事がたくさんあると思います。

もし、大人の皆さんが、その「もの」が無かったらどうしますか？諦めますか？出来なくて途方に暮れるだけですか？指示がないと動けませんか？いや、諦めないでしょう。大人の皆さんなら手立てを考えるとと思います。その中で自分なりの答えや対応を模索しましょう。

対応策を直ぐに人に頼ったり、指示を求めず自分で考えることができる事が非認知能力なのです。それが生活の中での工夫だったりコミュニケーション能力や対応力です。

それには、知育的な勉強以外の学習を幼い時にしっかり家庭や学校などで、集団や友だちと遊んだりしたからでしょう。先取りの知育以外の遊びこそ楽しみながら出来る学習になるのです。成長すると共に学んでいった知識を生活に当てはめていく力があるから、困難に打ち勝てるのです。その練習は就学前までに遊びを通してしっかり行いましょう。そして小学校の卒業までに習得しておくのが望ましいです。

昔、連絡手段などツールが乏しい 35一年以上前の小学生は、友だちとの約束をしっかり学校等で打ち合わせして帰ったことでしょう。その活動が能動的活動であり、大事な学習なのです。失敗すれば会えなかったり、多少の喧嘩があったでしょう。

しかし、現代は・・・どうでしょうか？連絡ツールの発展により大切な学習時間が奪われてきていると思います。リアルタイムで変更が可能になるし、様子がうかがえると思います。相手のことを考えて予測して事前に「こういう時はこうしよう」便利なツールが無い時は、様々な状況を考え工夫したり綿密に打ち合わせを重ねて数日後の休日に遊んだりしました。

デジタル社会の現代でもその大切な時間はあると思います。時代は変わっても子どものスキルレベルはさほど変わっていないと思います。

しかし、その大切な時間を奪っているのが大人かもしれません。子どもの遊ぶ約束を親同士が代わりにメールなどで連絡を取り、〇〇時に〇〇の所に集合だよと大人が決め子どもに伝えるなど、子どもも違和感なくやってしまうやりとり。残念なことに子どもが話し合いや、思考するチャンスを奪っていることに気付いているのか少し不安になる事もあります。

もし、この様な状況があれば、不便をあえて考えることをしてみたいかでしょうか？不便（ふべん）を不便（ふびん）と思わず、大切な学習と思ってあげてほしいです。

不便を知って体験する。不便を解決する練習をしよう。

まず、あえて不便を探す事をしなければなりません。不便を探すのは便利なツールを生まれた時からあると、なかなか見つけられないものです。では、実際どうすれば・・・。兎に角一度、全部無くしてみましょ。そして、どうなるか考えてみましょ。例えば、停電になったら、冷蔵庫洗濯機、照明、炊飯器など生活の基盤は電気製品で溢れています。その様な、当たり前前の生活ツールが使えなくなったらどうします？

いきなり全部無くなると想像しにくいので、例えば調理道具が無くなったらと考えてみましょ。皆さんは、まず何が思い浮かぶでしょうか？

たぶん火が出てくる方が多いでしょう。（最近は電子レンジかもしれない）

次ぎに鍋や包丁などなど普段何気なく使っているものが次々と出てきますね。

でも、無かった時代と現在では大きく違うことがあります。現在は過去の知恵が記憶され、道具や使い方を知っていること、道具の作り方を知っていることです。

無かった時代は「こうしたいから、この様なものが欲しい」と考えたでしょう。今は、スイッチひとつで火がつく、昔はどのくらい大変だったか体験することも大切な学習です。昔は火をつける道具を探すのも一苦労、過去を調べ揃えて体験するだけの私たちは凄く幸せだと思いませんか？

簡単に火がつくマッチですら 1827 年に黄燐マッチが発明され、それから約 50 年後の明治時代に国産のマッチが製造されました。マッチの歴史ですら 150 年ですから、つい最近ですね。でも、ガスは一般的ではない時代です。薪や炭を使い調理していたでしょう。火加減など目を離せない台所を守る人は凄いですね。失敗を重ね上手になっていたのでしょうか。失敗するから考える、良い活動を毎日していたのでしょうかね。

それ以前は、火打ち石などで火を起こしていた事でしょう。なお、大変な事だったでしょう。だから、必死に起こした火を大事にしたと思います。

その不便さを考えることが大事だと思います。先人の苦労や対策を振り返ってあげることが現在の私たちの次ぎに繋がる大切な行動になります。

技術者や職人は今も開発や改良に日々試行錯誤を重ねています。便利だから買う、必要だから買う、当たり前のように使っているものを何故、今の形になった、どうして産まれてきたのか、子ども達と考える事をしなければいけないと思います。この様な歴史の学習は学校でもやりますが、学校よりも家庭で親子や兄弟で話題にする方が非認知能力獲得には有効だと思います。さらに便利な「もの」はなんて素晴らしいと感じ、感謝できる子ども達にしていきたいものです。

「子供の頃は何事にも、思考や工夫を入れることが大切です。」

ファックスやコピー機など今は当たりの機械。

紙やインクも破格の安さ、安いものが溢れる時代は人間をダメにしていくものです。工夫と努力で安価なものが生まれたことを知ってあげましょう。

物の大切さや、ありがたみが分からない人間を作り上げてはいけません。

どんなものでも、それらに関わった人がいます。どの様な背景があるかなど考えるだけでも人間は成長します。

ミスプリントもルール化しなければ裏紙を使ったり、メモにしたりしないことが多い。壊れたら買い直す、自分で直すことをしないから大切にしない。いつからだろうと考えてみたほうが良いでしょう。

ものを感謝して使わない、他人のものを自分のものと同じように大切にできない。共同性や思いやりもいつから無くなったのだろうか？

「嘘も方便」と「ごまかし隠し逃げる」のが同じになってしまったのはいつからだろう？

「嘘も方便」は相手を傷つけない思いやり。「ごまかし隠し逃げる」は犯罪でしょう。

非認知能力獲得に必要なものは。

- 本人が考えること。
- 真似をして考える。
- 素直に受け入れる心。
- 大人も一緒に考える事。(知っているても答えは出さない)
- 失敗すること。(失敗を与える、そして責めない一緒に考える)
- 不便を知ること。
- こどもの行動に対して、大人が物を対価にしない。
- 課題は与えるが答えは渡さない。
- 答えに導くナッジはする。
- 完璧な回答より、導き出す過程を体験する。
- 物事は最初から最後まで体験する。(企画から活用まで)
- 人にやってもらうことを当たり前と感じない。
- 出来ないからやってもらう気持ちをなくす。
- やってくれている事を相手の仕事と思わない。
- 自ら探求する
- 自分に関わることに感謝する
- ものや物を分解や解体する
- 目標を持つこと
- 夢を持つこと

夢をもつ！

夢や目標、目的を持って生活する

夢や目標、目的に必要なトゥードゥーリストを親子で一緒に考える。

達成させる為の今できること、必要な事、今後必要なこと、必要な場所、必要な道具など細かく書き出し考える。

書き出したものを、頭でイメージしたり、イラストに書いてみたり、写真を探したりして、具現化していく。

非認知能力を獲得して向上させるためには不便を知り体験して、考える事をする事でしょう。

余談「不便益」

便利とは、手間がかからず、頭や体を使わなくても良いことだとします。そうすると、不便で良かった事や、不便じゃなくちゃダメなことが、色々あります。不便があるからその先に利益が生まれるのです。

不便で良かったことを「**不便益**」と呼びます。

「不便益」は必ず行動に思考が入ります。「不便益」の活動には非認知能力の獲得や向上に不可欠な事が楽しく学べることあがあります。

- ・「富士山の頂上に登るのは大変だろうと、富士山の頂上までエレベーターを作ったら、どうでしょう。よけいな世話というより、山登りの本来の意味がなくなります。」
- ・「ヒットを打てるように練習するのは大変だろうと。だれでも必ずヒットの打てるバットを作ったら。どうでしょう。これも同じですね。」
- ・子供の頃、遠足のおやつは〇〇円以内でした。もし、自由に好きなだけおやつを持っても良かったとしたら、どうでしょう？遠足前日に半日をつぶしてスーパーをうろつき、自分ならではの組み合わせを考え抜いた時間は楽しい時間でしょう。
- ・就職氷河期に、就活超勝ち組の学生がいました。コツを聞いたところ、新聞を取るのを止めたのだそうです。勝手に配達＋口座引落としという便利方式を止めて、毎朝コンビニに行ってキャッシュで新聞を買う。これがコツだと聞いた事があります。

非認知能力獲得に全てに共通する事は、不便さです。不便を感じることが人間を成長させているのです。不便が達成感や自己肯定感につながる大事な事でしょう。

自分でやるから達成感や自己肯定感が持てるのです。困難を自分で考える事が、至福へと繋がり達成感が生まれます。

結果的に、便利な「もの」は思考力を奪っていく。(なんでもやってくれる大人)

便利な「もの」で時間ができるから質が向上するとは限らない。結局便利が当たり前になれば何も考えなくなる。どのような状況、状態であっても思考することや問題点を解決できる力は必要であり、便利さが思考を邪魔していることは間違いない。

思考する事が生活習慣化されることになればいいと思えます。また、考えることやシミュレーションする事が人生を豊かにすることと覚えてもらえれば幸いです。

非認知能力の獲得や向上には、物事を思考をして順立てて行っていくロジカルシンキング的なことが必要になってくるのでしょう。

逆を言えば、ロジカルシンキングが出来ないのは非認知能力が身につけていないと言えるでしょう。